

# 縦型雨水貯留システム(SOCS利用)

近年、地球温暖化傾向やヒートアイランド現象により都市部において降雨が短期的かつ局所的に発生し、しかもその降雨量が予想をはるかに超えることもしばしば見受けられます。地下空間を交通や生活手段に利用している都市部で浸水が一度発生すると、被害が甚大となるばかりか人的被害の発生も懸念され、早急な対応が求められています。

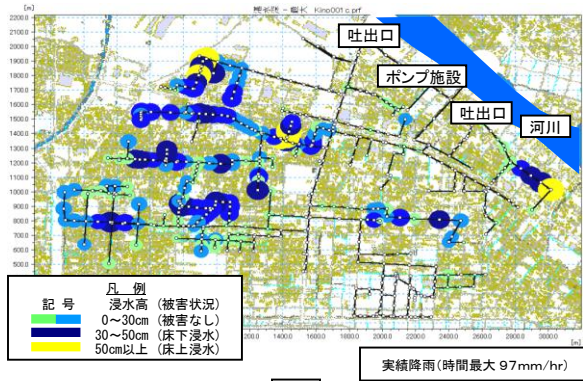
この都市型災害に対し、従来の貯留管方式による雨水対策に代り、整備期間が短く狭隘な場所でも設置可能な『縦型雨水貯留施設』を提案します。施工方法としては、大深度地下構造物を高品質・高精度・低コストで構築できる『自動化オープンケーソン(SOCS)工法』が有効と考えます。

## 縦型雨水貯留施設のメリット

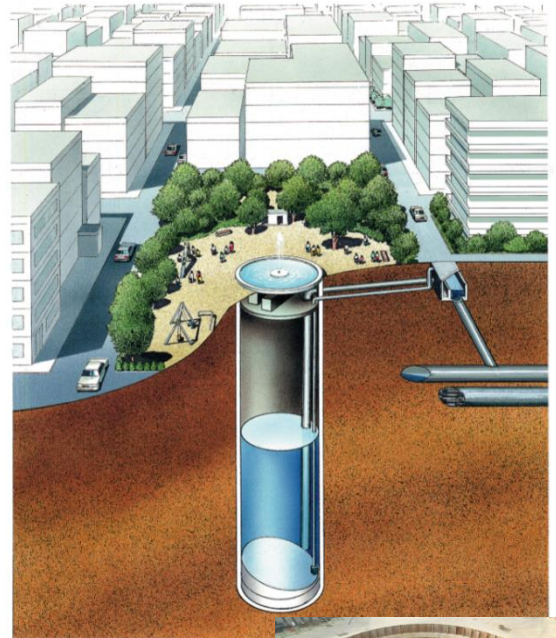
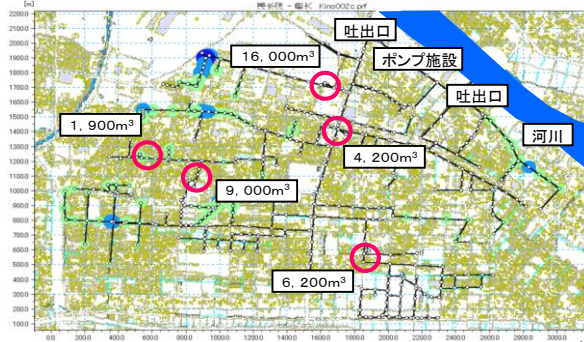
- ピンポイントで浸水被害を最小限に抑えることが可能  
既設雨水幹線整備状況や地形条件に合わせて、効率良く(場所・規模)貯留施設を設けることができます。
- 狭隘な場所に設置が可能  
用地占有面積が小さく、都市部の公園や校庭等限られた用地でも設置できます。
- 短期間で整備が可能  
従来のトンネルを利用した貯留管方式に比べ短期間に整備ができます。
- コストダウン・省力化への対応  
用地占有面積が小さく維持管理も容易なため、コストダウン・省力化が図れます。

## 雨水貯留施設効果(シミュレーション結果)

現状(多くの場所で浸水被害が発生しています)



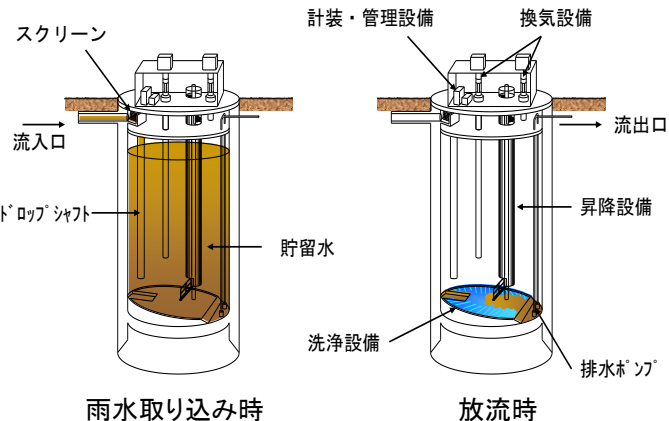
対策後(○の位置に貯留施設を設置; 浸水被害が大幅に減少しています)



設置イメージ



施工例(20,000m³)



縦型雨水貯留施設イメージ図